拾年間雜記

へ13
3313
40上

へ13
3318
40

大正十八年九月
本大学出版部寄贈

稲田卿元孫の図は図部の
寄贈の事

稲田卿元の図は図部の
寄贈の事

元の事は後部の事

[illegible]風景(ふうけい)の宜(よろ)しさ[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の新[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

まして[illegible]

[illegible]今宵(こよひ)の月(つき)

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]も一[illegible]の

新酒(しんしゆ)の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

弦楽にてもあらず、唄にあらず
猿楽にもあらず[illegible]能
其体も[illegible]ものゝ[illegible]
[illegible]ゆる[illegible]を[illegible]
古今[illegible]の[illegible]たる[illegible]
[illegible]の[illegible]男
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]世
のこ[illegible]の
[illegible]
[illegible]の

金須弥楼の底を[illegible]出し[illegible]
ろ[illegible]て[illegible]二三[illegible]
天[illegible]の[illegible]大[illegible]の[illegible]
当[illegible]し[illegible]がざり[illegible]
し[illegible]ましまじり[illegible]
ましけ[illegible]なり
[illegible]りし[illegible]天下の[illegible]
[illegible]今[illegible]
る今日[illegible]が
[illegible]に[illegible]の金[illegible]
[illegible]道[illegible]
が[illegible]
[illegible]今[illegible]
の[illegible]

ねごとまでもだしぬけに長歌
の修行心して陳腐もこつそくし
さるまち男はかかし通ひし
ずし行やらぬ命からむしり金銀
をまるでいれあげ山がらあそび稲殻
ちらし三十二三まで勘しこのまま
沸も浮世もつしまつとは

身を稲殻して下まちしと
おもひしが浮世をあそぶ者
あしぶ上戸の晴眼のゐ字
むかしむかしはやり流し車
切まゝ向ききこそ
浮世浮流の彌十さま
持ぞ是くだ旅新丁算の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あんの御ほまれ古曽のかくも
ゆかしき是ら謙古由己古閉
はをし是臣るも御もきかずとも
兎角のぞうもは雷らん優美のまゝ
業ま體しうつやおもひ
けん山分かれあげ搦し古風く
ぶふて平かしなしふるや

ものちの御まゝのぞ其れのぞん業を
かりも古実尊れまも諸事有
御の總修さ白凡んの仕業ま
かしず搦れし古ゑの御相大
其言しおもせられ命々出所
おもれて聞え其をして附る
ぬえ下やも名筆の長尊其はみ

隠家も連り　酒を呑まし
此頃の参詣を　もしかんと斗る
手めつ　扨も満るに　物あまか
そうく張良が謀事をうまく撰
常が富をかすゝも　何飢の事
わけとこ　作けも倒し　の御麿
乱とい海へ引き　あ出[illegible]も

其こにも武ても将鍛の論事も
甚もあまり　又もは其なし
呂子が心ふ　鏡が取もあむ
春ゆまで　元取軍の小事了
まてし　仁主　仁主とし　かたく
其こその　かし地も業もし
うれ　君も世をれはかしその地

慢心して驕りは極楽しが
今生斗ふかしの業縁
まかりいで極悪を到らしこと
思ふよ井の内の蛙が大海を
知らずよりも面目かさ深き
かりて命を捨てゝまもん
世のわかれをまぞく

無心の事は五月雨も五常の
菩提を結びて生涯かん出の
作をしん事し結び首くゝり
まこと兵法の智首乱を足ぬ
ますみの時の兵法おまりよの
らんと浮気より目縁せして
古男の詞ま後がひし陽色家

まして優(いう)なるは何(いか)事も文(ぶん)
手跡(てせき)は習(なら)ふる事に寄(よ)りて新(あら)たに利(り)
生(しやう)涯(がい)心(こころ)浦(うら)に佛(ぶつ)説(せつ)の
などこそ候(さふら)へ

歌(うた)ふ稲(いな)田(だ)郷(がう)の潯(じん)陽(やう)江(かう)尾(び)勢(せい)
あるひは破(は)古(こ)男(なん)が菓(くわ)園(えん)に遊(あそ)び

これ出(いで)路(ぢ)に至りて山の奥(おく)を尋ね
道(みち)ある所(ところ)を石(いし)の路(みち)をも踏(ふ)み越(こ)え
曲(まが)りくねり中(なか)より深(ふか)き山(やま)に入(い)り
又(また)登(のぼ)り丹(に)の峰(みね)に至(いた)り来(き)て
はるかに遠(とほ)く國(くに)を眺(なが)めて
尾(お)上(へ)の風(ふう)景(けい)をも見(み)て里(さと)に帰(かへ)り
一天(てん)雲(くも)も晴(は)れて日(ひ)影(かげ)

なかき帝城は すべて東の方
其外房上総南の方 伊豆
相模武蔵の国は 甲斐信濃越後
の国々 下総上野常陸の
一日に二度ハ 利根川の流れ
あるが其の[illegible]のきまりの
笹をかしこまで 眼中の景

見渡しは いかに遠く 岸も浪ま
山中の風景 東叡の心
さすが泉涌寺 千里よ
三井寺をして遠く見ゆる
よし見る仙境の [illegible]
家のいつとのに 古城もちよ
金龍山浅草の観音 聖天

黒(こく)てんのちぎりし落(おつ)し殿(うけ)ま
底(そこ)の君(ま)の勝(かぎ)ちやうしや中(あか)り
あいへんの侭(たえ)づまやよしもおもき様
さや驚(しんき)かなり晴(まれ)ずも安楽(けんあん)
住(まり)わし一間(ひとま)のみの呂(ちや)弟(ざ)まちりまかる
ましもちし山海(さんかい)の珍(ちんこ)果しそろれ
ころしたぐころし御言(しゆえん)のも

こころし翫(いさぎ)もよろこみるし碩(しや)を
まさは帰(ふ)りん(じん)殺(さつ)ほちもむしもと
元(げん)今覚風俗(ふうぞく)以前しつくしまもこころ
おもひやりし　金殿(きんでん)玉楼(ぎよくろう)
暮(のぼ)り内(こころ)もろこし乱(が)し
菱(ひし)海も珍(ここ)首小屋(こや)貢(こう)さつま(がんぞく)
枯(せんかう)家の列(べつせん)世あわりして風俗の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

関東の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の振まひ[illegible]軍[illegible]て
[illegible]し[illegible]
せ[illegible]に天下の[illegible]
[illegible]
世の中の[illegible]
[illegible]
一巳[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]
て[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

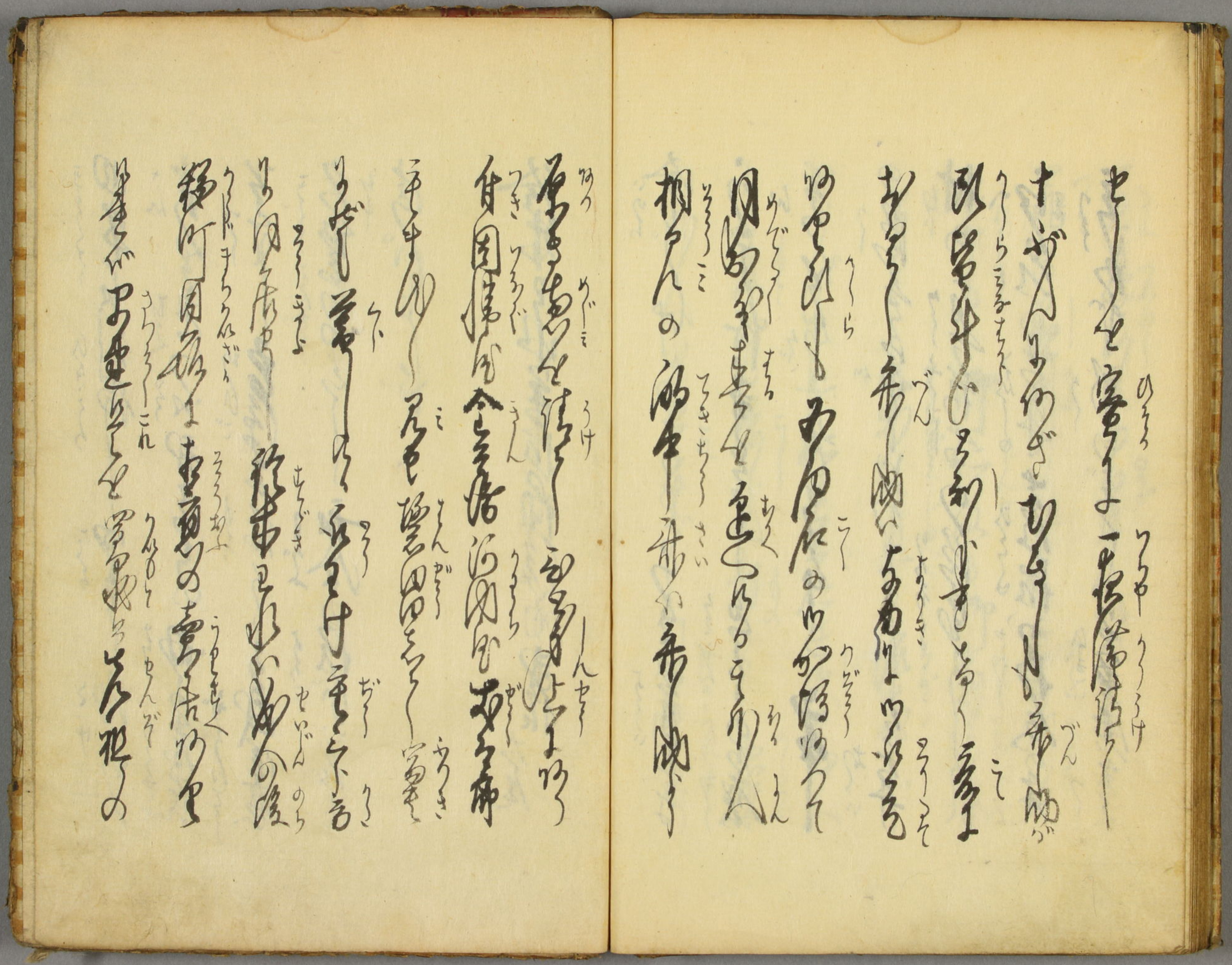
[illegible]

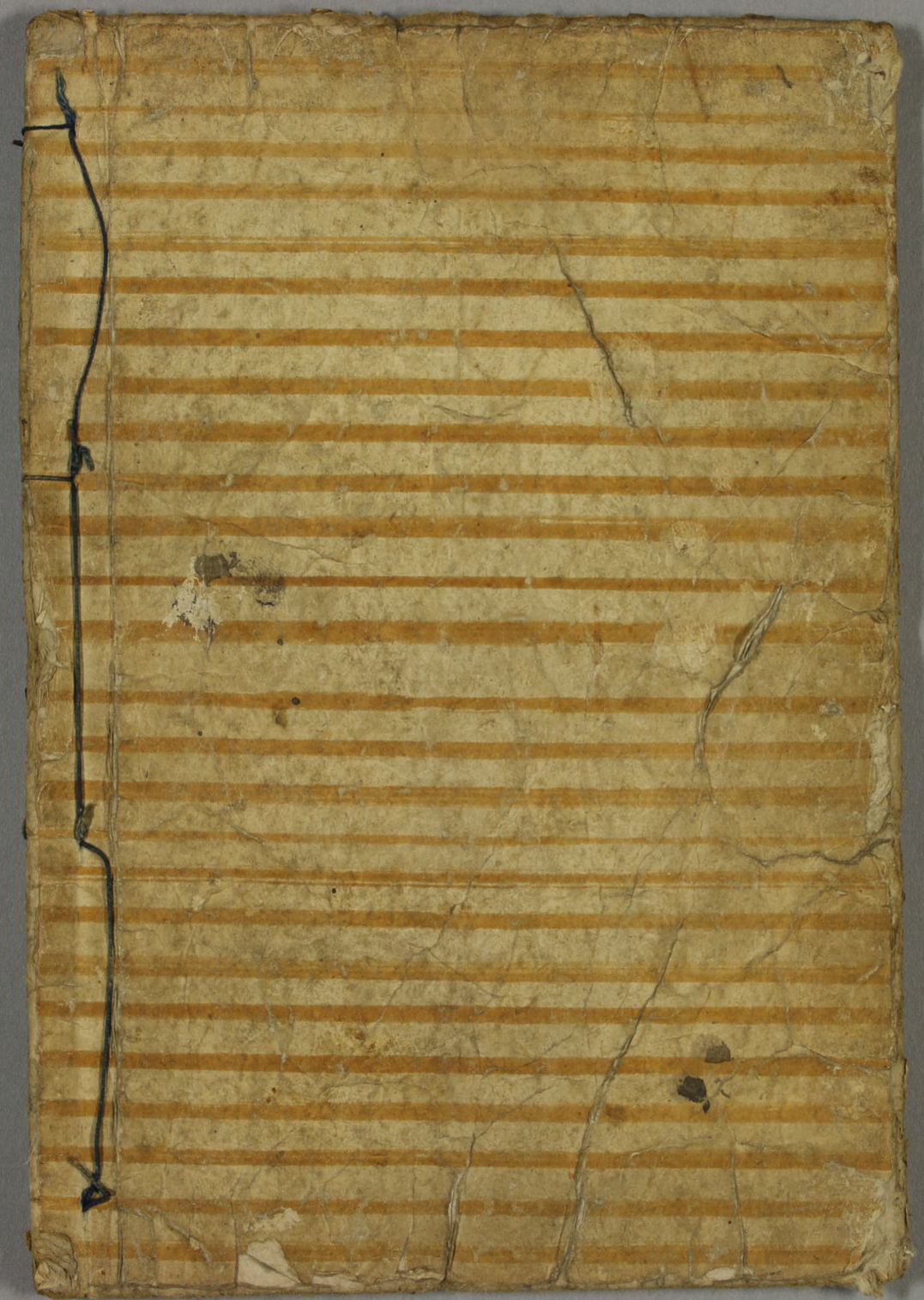
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一上長崎の番人吟味之
罪の軽重の刑のごとく
これ也 河内国の河内屋
もと 分部流罪
かりびと 行方の番人
もと 仕置の者
これ
のみへと 引連
命じけのもと
らを宮内
もと の農
の陣屋
村の百姓
へ 宮の手
主張 者の
主人 形の



四宝寺池水
書写之毎年春
芝原ニ成長
久野宮四方
清ビ申候

除草ニ水薬撒布書指大尾